

### 3 肺がんの最大の危険因子は喫煙

喫煙は咽喉がん、喉頭がん、胃がんなど様々ながんの発生に影響を及ぼしますが、肺がんの場合、男性患者の約70%、女性患者の約20%はたばこががん死亡と関連したという調査結果があります。がんは、発がん物質や放射線、環境汚染などの影響を受けて変異した遺伝子を持つ細胞が、無秩序に増殖して塊（腫瘍）を作ったものです。たばこには約70種類の発がん物質（化学物質）が含まれているため、喫煙本数が多く、喫煙年数が長いほど、肺がんにかかりやすくなります。

一日に吸うたばこの本数と喫煙年数をかけた「プリンクマン指数（喫煙指数）」というものがあります。例えば毎日1箱（20本入り）を20歳から吸っている40歳の人は、 $20本 \times 20年 = 400$ となります。この数値が400を超えると肺がんを発症する危険性が高くなり、600以上は肺がんの高度危険群といわれています。また、10代に吸い始めた人の方が肺がんのリスクが高いという統計もあります。

肺がんの発生率は、50歳以上で急増します。非喫煙者に比べて、喫煙者が肺がんになるリスクは、日本人を対象とした研究（2008年）では、男性で4.8倍、女性で3.9倍高いことが明らかになっています\*<sup>1</sup>。

肺がんの中でも、扁平上皮がんでは男性は12倍、女性は11倍と影響が高いことが示されています。最新の研究では腺がんでも男性は2.3倍、女性は1.4倍高いことが明らかになりました\*<sup>2</sup>。また、非喫煙者でも、他人のたばこの煙を吸ってしまう受動喫煙者は、受動喫煙がない人に比べて肺がんのリスクが20～30%程度高くなると推定されています。

喫煙以外の環境の要因としては、アスベストやシリカ、クロム酸、ヒ素、ラドン、クロロメチルエーテル、ニッケル、コールタール、ディーゼル排ガス、放射線などを職業や一般環境で被ばくする環境にある人が挙げられています。

\*<sup>1</sup>:Katanoda K, et al: J Epidemiol, 2008;18 251-264

\*<sup>2</sup>:厚生労働省「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」